

その後同地点で何度も本種を確認しているが、島内の他の地点における採集例も多くなり、分布地域も次第に広がっていった。特に1960年代の後半には毎年発生が見られ、春型もかなり採集されているところから、確実に土着したものと思われるようになった。

現在は島内の各地に多く見られ、特に洲本市の由良や上灘、南淡町の灘などに個体数が多い。しかし、まだ島内全部に土着しているわけではない。洲本市安乎町では年によって差が大きく、成虫・幼虫ともかなりの個体数が見られる年と全く見られない年とがあり、まだ土着はしていないようである。

3. ムラサキシジミ

1950年代には、先山をはじめ洲本市安乎町や中川原町・竹原などでよく見られ、ごく普通の種であったが、私はここ10年余り本種の姿を全く見かけていない。前川和昭氏が先山で最近採集されたということなので、絶滅はしていないが、個体数は極めて少なくなっている。

なお、津名郡や三原郡でも1965年以降の採集記録は見られないようである。

4. ウラギンスジヒョウモン

1950年代には洲本市安乎町の池の堤防で、6月頃本種がかなり見られたが、1960年以降は全く見られなくなった。今までのところ、島内では洲本市安乎町で記録されているだけである。

5. オオウラギンヒョウモン

本種も1950年代には洲本市安乎町でかなりの個体が得られ、当時新潟県の同好者との交換に使用したほどであったが、1960年以降は全く見られなくなった。なお、島内では三原郡賀集で1967年6年に1頭採集されているだけで他に記録はない。

6. ジャノメチョウ

本種は1950年代から洲本市安乎町や津名郡の山地で採集できたが、個体数はあまり多くなかった。最近洲本市安乎町では個体数が多く、7月中～下旬が最盛期である。また、採集例がなかった三原郡内でも、1978年になって緑町の倭文で記録されている。

(1982, 12, 30)

諭鶴羽山でトゲヒゲヒメカミキリを採集

1980年8月14日、南淡町諭鶴羽神社境内でブラックライトを使用してナイターをした所、トゲヒゲヒメカミキリ *Allotraeus rufescens* Pic を1♂1♀採集したので報告する。当夜は濃霧が発生して寒い位であったが、多数の大型のガとヒメハルゼミ2♀♀が飛来して楽しいナイターだった。

本種を同定していただきました田中勇氏に感謝したい。

(田中 稔)